

# 植 物 園 北 遺 跡

2023年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 植 物 園 北 遺 跡

2023年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、校舎改修工事に伴う植物園北遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

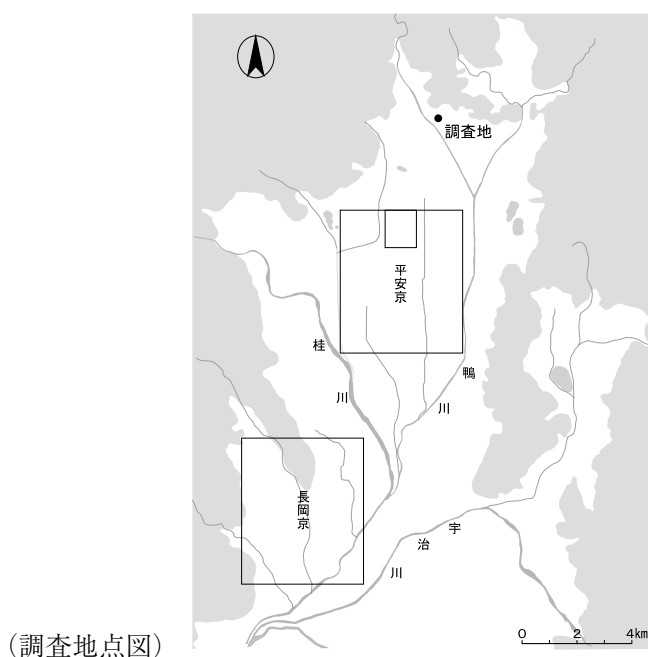
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和5年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- |          |   |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名  | 植物園北遺跡（京都市番号 21 S 520）                        |
| 2 調査所在地  | 京都市北区上賀茂烏帽子ヶ垣内町1番地（上賀茂小学校）                    |
| 3 委 託 者  | 京都市 代表者 京都市長 門川大作                             |
| 4 調査期間   | 2022年7月23日～2022年8月23日                         |
| 5 調査面積   | 64㎡   |
| 6 調査担当者  | 布川豊治  |
| 7 使用地図   | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「西賀茂」・「幡枝」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系  | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）                |
| 9 使用標高   | T.P.：東京湾平均海面高度                                |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。             |
| 11 遺構番号  | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。                          |
| 12 遺物番号  | 通し番号を付した。                                     |
| 13 本書作成  | 布川豊治  |
| 14 備 考   | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。     |



# 目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 歴史的環境と立地	3
(2) 周辺の調査	3
3. 遺 構	7
(1) 基本層序	7
(2) 遺構	7
4. 遺 物	10
(1) 遺物の概要	10
(2) 土器類	10
5. ま と め	12

# 図 版 目 次

図版1	遺構	調査区平面図 (1 : 80)
図版2	遺構	調査区北壁・東壁断面図 (1 : 50)
図版3	遺構	1 調査区全景 (西から) 2 竪穴建物3 (北西から)
図版4	遺構	1 掘立柱建物1、柱穴列2 (西から) 2 土坑1土師器皿出土状況 (北から) 3 土坑1完掘断面 (北から)

## 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：800）	2
図3	調査前全景（南西から）	2
図4	作業状況（北東から）	2
図5	周辺調査位置図（1：10,000）	4
図6	竪穴建物3実測図（1：50）	7
図7	掘立柱建物1実測図（1：50）	8
図8	柱穴列2実測図（1：50）	9
図9	土坑1実測図（1：50）	9
図10	出土土器実測図（1：4）	10
図11	遺構変遷図（1：2,500）	13
図12	調査2 B区 鎌倉時代から桃山時代遺構平面図（1：150）	14

## 表 目 次

表1	周辺調査一覧表	5
表2	文献一覧表	6
表3	遺構概要表	7
表4	遺物概要表	10



# 植物園北遺跡

## 1. 調査経過

今回の調査は、京都市立上賀茂小学校長寿命化改修工事に伴うものである。調査地の<sup>1</sup>上賀茂小学校は植物園北遺跡に含まれ、遺構の検出が想定されることから工事に先立ち、発掘調査を実施することとなった。調査区は京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）の指導に従い、南校舎の北隣中央部に設定した。その大きさは、東西約16m、南北約4m、面積64㎡前後である。

調査は2022年7月23日から付帯工事（インターロッキングブロック舗装面の取り外し）を行い、器材搬入・引越しののち、27日から重機掘削を開始した。現代盛土・耕作土を除去すると、地面より深さ50cm前後で地山面となり、この面を遺構面とした。この面から手作業により29日から遺構検出、遺構掘削を開始した。調査の結果、建物跡・柱穴・土坑などを検出した。写真撮影、図面作成などの遺構の記録は適宜行った。その後、埋め戻し、ブロック舗装復旧、器材搬出を終え、8月23日に現地作業を終了した。

なお、適時に文化財保護課による検査、京都大学の伊藤淳史氏による検証を受けた。



図1 調査位置図（1：2,500）

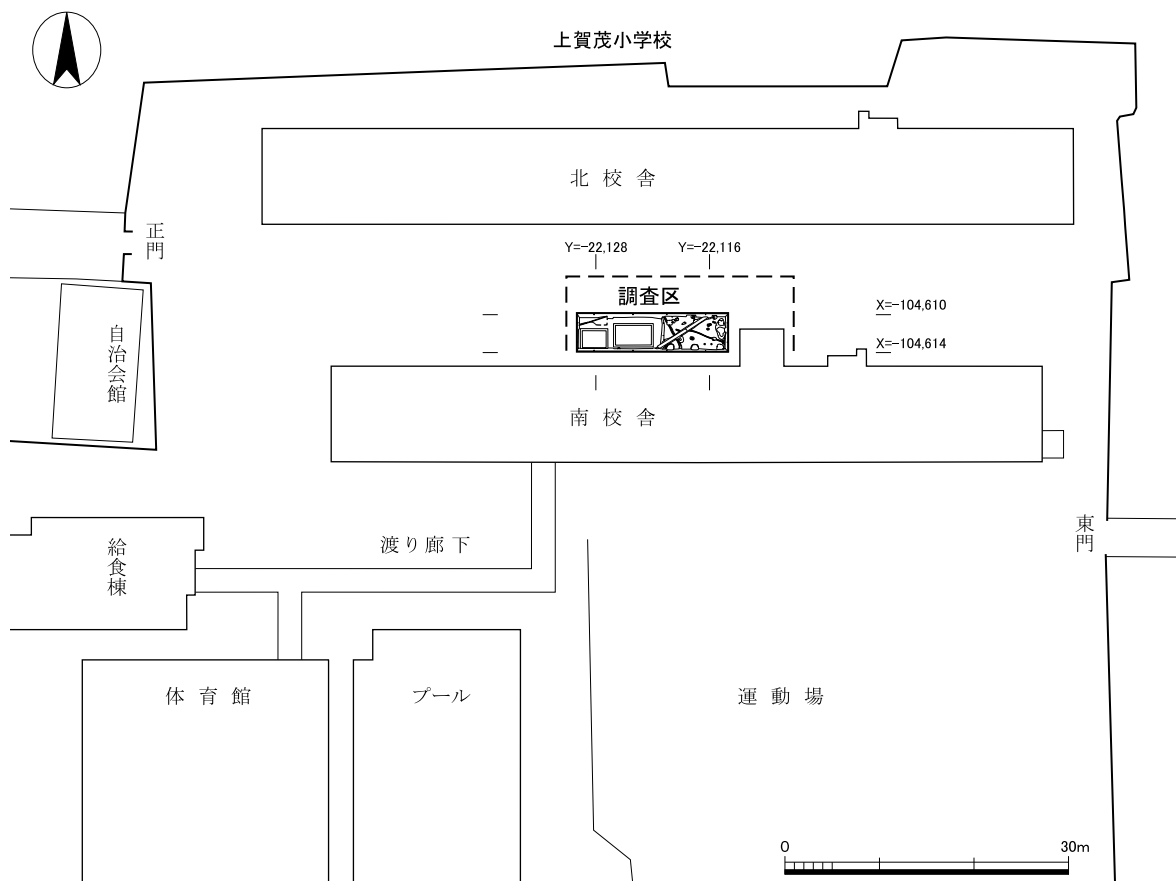


図2 調査区配置図 (1 : 800)



図3 調査前全景 (南西から)



図4 作業状況 (北東から)

## 2. 位置と環境

### (1) 歴史的環境と立地

今回の調査地上賀茂は京都盆地北部の北端にあたり、賀茂川と高野川合流点から北に広がる逆三角形の平地に位置する。この辺り一帯は賀茂川が北山山間部から平野部へ流れ出て形成した扇状地である。

この地域で公共下水道敷設工事が計画され、これに伴う立会調査と試掘調査(調査1)が1979年から1981年にわたり実施された。その範囲は東西が賀茂川から西へ松ヶ崎付近まで、南北は北山通から山裾あたりまでの一帯である。その結果、縄文時代から室町時代までの遺構が検出され、中でも弥生時代後期から古墳時代にかけての大規模な集落跡が明らかとなり、「植物園北遺跡」と名付けられた。この遺跡の範囲は、西が賀茂川左岸あたりまで、北西端は上賀茂神社、北は神宮寺山・本山・西山に接し、東は松ヶ崎通付近まで、南は京都府立植物園から京都府立大学あたりまでの東西約2.1km、南北約1.4kmの広がりをもつ。調査地はその植物園北遺跡の北西部に位置する。

### (2) 周辺の調査

植物園北遺跡では、遺跡の存在が周知されて以来、2022年までに数多くの調査が実施されている。それらの主なものを、周辺調査位置図(図5)、周辺調査一覧表(表1)、文献一覧表(表2)として掲載した<sup>1)</sup>。

上賀茂小学校とその近隣では、調査が3箇所実施されている(図1)。小学校の北隣での調査2では、古墳時代の竪穴建物、鎌倉・室町時代の東西溝と井戸、柱穴群、桃山時代の石室などが発見された。体育館建替えに伴う調査3では、弥生時代から古墳時代にかけての北西から南東の自然流路、古墳時代の竪穴建物3棟、平安時代の掘立柱建物1棟などが発見された。児童館を建設に伴う調査4では、古墳時代の掘立柱建物2棟、北西から南東の自然流路、室町時代の多数の土坑、柱穴群、その他に江戸時代の耕作の遺構も発見している。

註

- 1) 布川豊治『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-11(表2:文献49)に掲載の図5、表1・2を修正・加筆した。

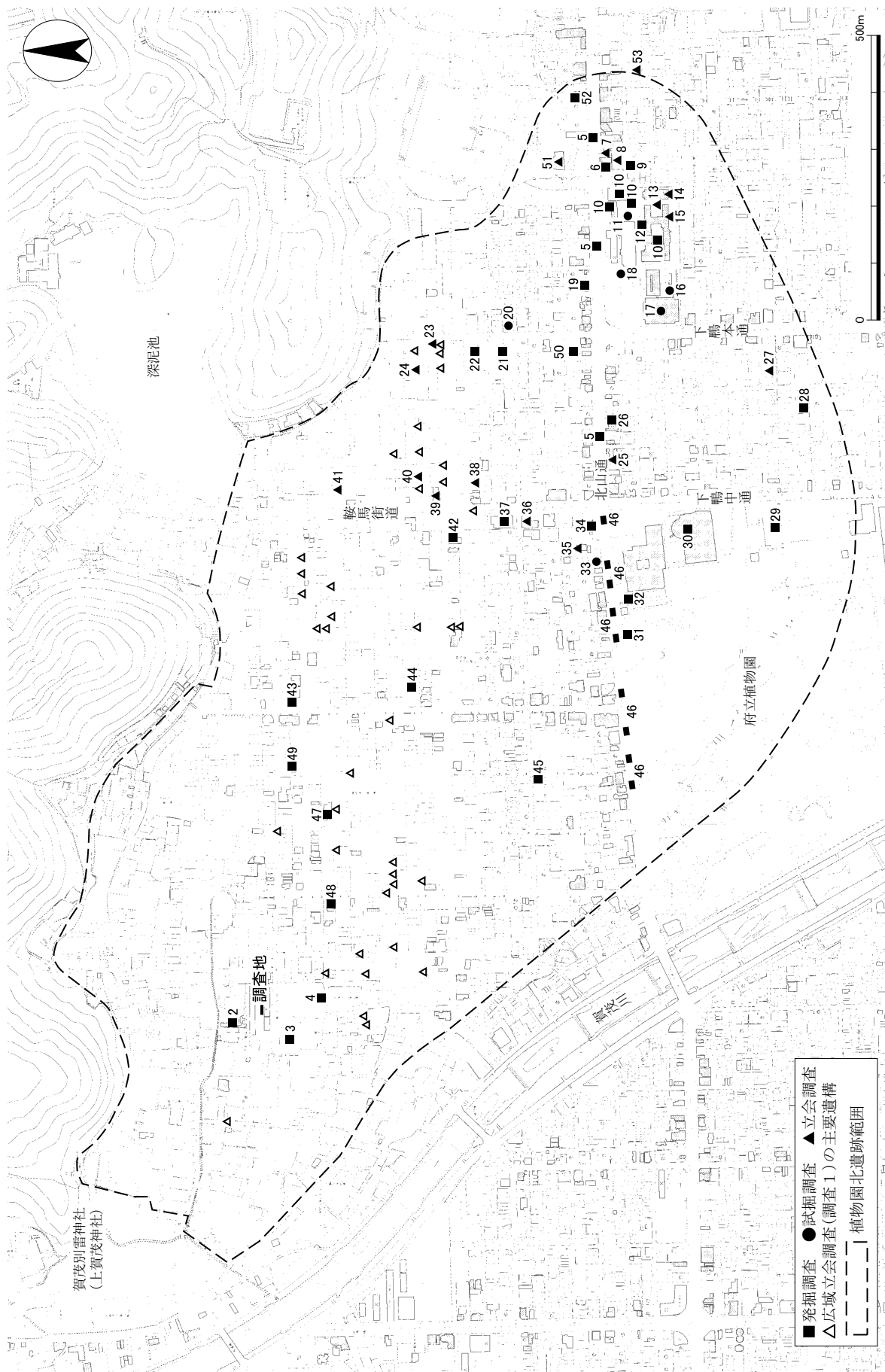


図5 周辺調査位置図 (1 : 10,000)

表1 周辺調査一覧表

調査番号	調査年	方法	縄文時代	弥生時代	古墳(前期・後期)、飛鳥時代	奈良、平安時代	鎌倉時代以降	文献番号
1	1979 ～1981	広域 立会	堆積層	堅穴建物38棟、溝10条、土坑16基 (後期～古墳前期)	堅穴建物3棟、溝1条、土坑4 基(後期)	土坑、柱穴、溝(平安中期～)	土坑、溝、柱穴	1
2	1989	発掘			堅穴建物(前期2棟、後期8棟)		井戸、溝、柱穴群	8
3	1993	発掘		流路(～古墳)	堅穴建物3棟	掘立柱建物(平安)	井戸、土坑、柱穴	16
4	2002	発掘			掘立柱建物2棟、自然流路		土坑、柱穴(室町)	27
5	1992 ～1993	発掘		堅穴建物4棟(後期)	溝(～古墳)		柱穴	13
6	2007	発掘			堅穴建物3棟(前期)。溝	堅穴建物1棟(奈良後半)		36
7	2012	立会			堅穴建物2棟、土坑			43
8	2006	立会			堅穴建物6棟、柵1条、土坑、柱穴			32
9	2011	発掘			堅穴建物4棟		土坑群	41
10	2013	発掘			堅穴建物(前期8棟、後期3棟)。掘立柱 建物1棟(後期)。土坑	掘立柱建物2棟、土坑(奈良)。 ピット(平安)	土坑	44
11	1994	試掘			土坑、柱穴(飛鳥)			19
12	1990	発掘			堅穴建物(前期13棟、後期3棟)。土坑 群、柱穴群			11
13	2015	立会			堅穴建物1棟(前期)			47
14	2011	立会			堅穴建物1棟(前期)			40
15	2010	立会			堅穴建物3棟。堅穴建物1棟(飛鳥)			39
16	2001	試掘		顕著な遺構なし				28
17	1992	試掘		顕著な遺構なし				15
18	2003	試掘		顕著な遺構なし				30
19	2007	発掘		堅穴建物9棟、土坑7基、柱穴群 (後期～古墳前期)	溝(飛鳥)	包含層(平安)		35
20	1994	試掘			堅穴建物、掘立柱建物、溝、土坑2基			19
21	1995	発掘		堅穴建物4棟、集石遺構2基(終 末期～古墳初頭)	堅穴建物2棟、土坑6基(前期)			20
22	1993	発掘		堅穴建物1棟(後期中頃～後半)。 土坑6基(後期～古墳前期)。堅 穴建物2棟(後期末～古墳初頭)	集石遺構(初頭)。堅穴建物2 棟(前期)	掘立柱建物2棟(平安後期)		17
23	2005	立会			堅穴建物、落込み、柱穴			31
24	2002	立会			堅穴建物1棟(前期)			29
25	1996	立会	土坑(中期)	堅穴建物、掘立柱建物(末～古墳初期)				22
26	2016	発掘		顕著な遺構なし				48
27	2006	立会			堅穴建物1棟(後期)			34
28	2010 ～2011	発掘			堅穴建物2棟、掘立柱建物1棟、土坑2 基(飛鳥)			38
29	2011 ～2013	発掘			堅穴建物1棟(後期)	堅穴建物9棟(奈良)。掘立柱建物 39棟、土坑群、溝群(奈良末～)	流路、掘立柱建物	46
30	1991 ～1992	発掘	甕棺墓		堅穴建物6棟(末期～奈良)	掘立柱建物16棟、埋納遺構14基、 柵列、溝	土坑、柱穴	12
31	1990	発掘			溝	溝状遺構(平安中期)	溝、土坑、柱穴	9
32	1992	発掘			溝(前期)。掘立柱建物、柵、土坑、柱穴			14
33	1994	試掘				溝、柱穴群(時期不明)		19
34	1997	発掘				掘立柱建物1棟		23
35	1997	立会			堅穴状遺構、溝状遺構。落込み(飛鳥)	柱穴2基(時期不明)		24
36	1999	立会			堅穴建物2棟(前期)	溝、土坑(平安)		25
37	1990	発掘			堅穴建物9棟、流路1条、土坑2基(前期)	掘立柱建物4棟(平安後期～鎌倉)	溝、土坑、柱穴	10
38	1984	立会			堅穴建物1棟			5
39	1984	試掘			堅穴建物3棟(前期)			6
40	2002	立会			堅穴建物4棟(前期)			29
41	2006	立会			堅穴建物1棟(前期)			33
42	1994	発掘				流路状遺構(～平安)		18
43	2007	発掘				溝、土坑(奈良)。溝、土坑、柱列、 掘立柱建物3棟(平安)		37
44	1982	発掘					道路	2
45	1983	発掘				土坑3基(平安)		3
46	1986	発掘	甕棺墓	柱穴(前期)	落込み(後期)。柱穴(飛鳥)	溝状土坑、柱穴		7
47	2000	発掘		流路(後期～古墳前期)	堅穴建物2棟(前期と中期)			26
48	1984	発掘		堅穴建物2棟(後期)	堅穴建物2棟、土坑(前期)。溝(後期)			4
49	2013	発掘			堅穴建物(中期2棟)		土坑(室町)	45
50	2018	発掘			掘立柱建物2棟			49・50
51	1984	立会			堅穴建物3棟			5
52	1995	発掘				掘立柱建物2棟(奈良～平安前期)		21
53	2012	試掘			堅穴建物1棟(前期)			42

表2 文献一覧表

文献番号	文 献	調査番号
1	「植物園北遺跡」『京都市埋蔵文化財調査概要 昭和55年度』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年	1
2	家崎孝治・卜田健司『植物園北遺跡発掘調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年	44
3	久世康博「植物園北遺跡(2)」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1984年	45
4	辻 裕司・木下保明『植物園北遺跡発掘調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年	48
5	「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年	38・51
6	「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1985年	39
7	小森俊寛・長戸満男「植物園北遺跡」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989年	46
8	高 正 龍ほか『植物園北遺跡発掘調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年	2
9	長戸満男・小森俊寛「植物園北遺跡2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年	31
10	高橋 潔「植物園北遺跡」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年	37
11	長谷川行孝『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘調査報告－植物園北遺跡－』ノートルダム女子大学 1991年	12
12	久世康博「植物園北遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年	30
13	高橋 潔・高 正 龍「植物園北遺跡」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年	5
14	竹原一彦「植物園北遺跡第11次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第54冊』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1993年	32
15	「植物園北遺跡 No.43」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成4年度』京都市文化観光局 1993年	17
16	久世康博・津々池惣一「植物園北遺跡1」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年	3
17	岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「植物園北遺跡第13次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第58冊』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1994年	22
18	高橋 潔「植物園北遺跡(第14次調査)」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年	42
19	馬瀬智光「植物園北遺跡 No.63, No.64, No.65」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年	11・20・33
20	石尾政信・杉本厚典「植物園北遺跡第16次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第70冊』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1996年	21
21	久世康博「植物園北遺跡」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年	52
22	高橋 潔「植物園北遺跡(96RH224)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年	25
23	百瀬正恒「植物園北遺跡」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1999年	34
24	近藤章子「植物園北遺跡(97RH202)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1998年	35
25	吉本健吾・竜子正彦「植物園北遺跡(99RH18)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』京都市文化市民局 2000年	36
26	近藤章子・菅田 薫「植物園北遺跡」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年	47
27	鈴木廣司・津々池惣一『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-14 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年	4
28	「植物園北遺跡 No.15」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年	16
29	堀内寛昭「植物園北遺跡(02RH51・53)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成14年度』京都市文化市民局 2003年	24・40
30	「植物園北遺跡 No.11」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年	18
31	堀内寛昭「植物園北遺跡(05RH276)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年	23
32	吉崎 伸「植物園北遺跡(06RH234)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年	8
33	吉本健吾「植物園北遺跡(06RH253)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年	41
34	吉本健吾「植物園北遺跡(06RH322)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年	27
35	平田 泰『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-1 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年	19
36	山本雅和「植物園北遺跡1」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年	6
37	柏田有香「植物園北遺跡2」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年	43
38	津々池惣一「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年	28
39	吉本健吾「植物園北遺跡(10RH291)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22年度』京都市文化市民局 2011年	15
40	吉本健吾「植物園北遺跡(11RH256)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年	14
41	吉崎 伸「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年	9
42	鈴木久史「植物園北遺跡 No.80」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年	53
43	辻 裕司・田中利津子「植物園北遺跡(12RH260)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年	7
44	柏田有香ほか「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-24 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年	10
45	柏田有香「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-4 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年	49
46	高野陽子ほか「植物園北遺跡・下鴨半木町遺跡」『京都府遺跡調査報告集 第159冊』公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2014年	29
47	赤松佳奈「植物園北遺跡(10S134)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年	13
48	李 銀眞『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2016-5 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2017年	26
49	布川豊治「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-11 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年	50
50	清水早織・熊井亮介「植物園北遺跡(18S272)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年	50

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序 (図版 2)

調査区北壁 Y = - 22,127 ~ - 22,128 では、現代層 (ブロック・砂層・碎石) が厚さ約 0.3 m、その下に耕作土が厚さ約 0.1 m 堆積している。その下は包含層が厚さ約 0.2 m 堆積している。さらにその下は地山であり、この上面が遺構検出面で、標高 80.75 m 前後である。

調査区東壁 X = - 104,611 ~ - 104,612 では、現代層 (ブロック・砂層・碎石・現代盛土) が厚さ約 0.3 m、その下に耕作土が厚さ約 0.1 m 堆積している。その下が地山であり、この上面が遺構検出面で、標高 80.8 m 前後である。

#### (2) 遺構 (図版 1・3)

調査区西半はコンクリート基礎の攪乱が調査区全体の約 2/5 を占める。調査区東半は遺構の残存状況が良好であり、建物 2 棟、土坑、柱穴列などを検出した。

**竪穴建物 3** (図 6、図版 3) 調査区中央部で検出した。壁溝と焼土を多く含むブロックを伴う。建物の一部のみを検出であり、全体の規模は不明である。建物の傾きは北に対して西へ約 29.2 度である。検出面の規模は長さ 4 m 以上、幅 2 m 以上である。壁沿いの壁溝規模は幅 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.15 m である。建物埋土は黒褐色粘質土であり、2 層に分層し

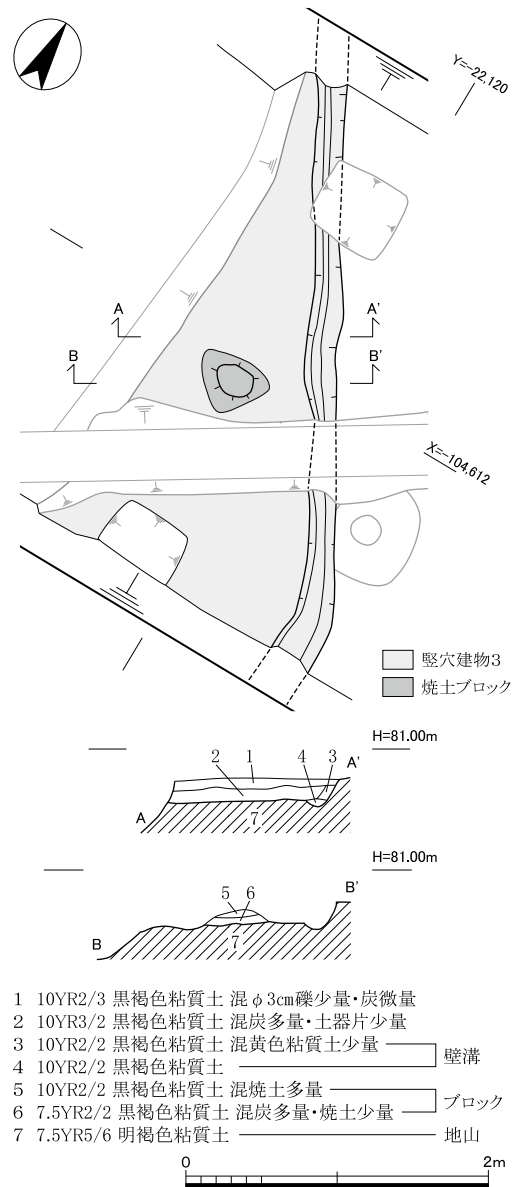


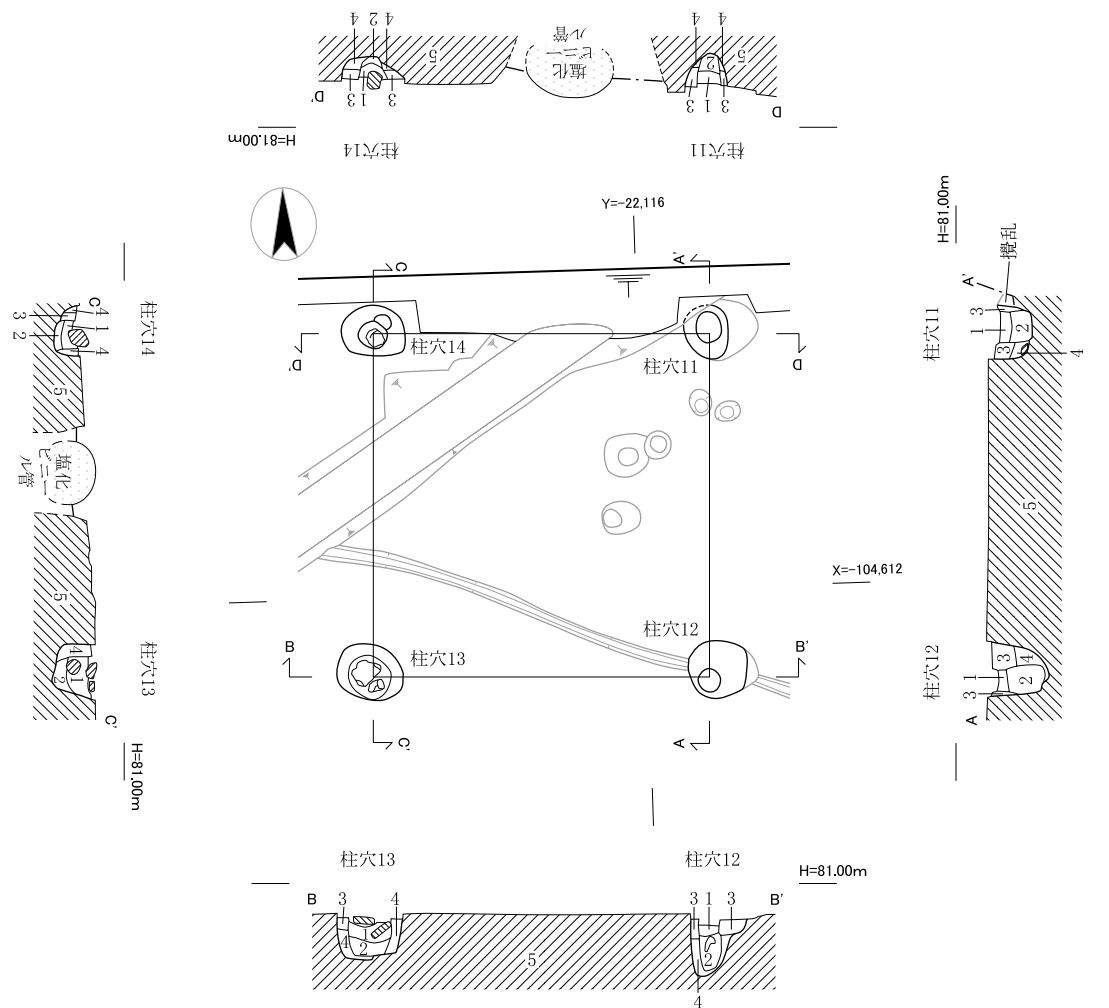
図 6 竪穴建物 3 実測図 (1 : 50)

表 3 遺構概要表

時代	遺構	備考
古墳時代	竪穴建物 3	
平安時代中期	掘立柱建物 1、柱穴列 2	
鎌倉時代末期 ~室町時代初期	土坑 1	

た。下層は貼床としては、固く締まらない粘質土であり、壁溝を掘り込む。建物残存部の中央、地山面直上で焼土を多く含むブロックを検出した。ブロックの検出面の形は三角形状である。検出規模は一辺約0.4m、厚さ約0.1mである。これは固く締まる焼土ではないことから、竈ではないと考えられる。古墳時代の土師器が出土した。

掘立柱建物1(図7、図版4) 調査区東側で柱穴を4基検出した。各柱穴を結ぶと方形となる。東西柱穴列の西側延長部では柱穴は検出できなかった。各柱穴の柱間は2.25m前後の掘立柱建物である。建物の傾きは北に対して東へ約2度、ほぼ南北である。検出面の各柱穴掘形は楕円形であ



- 柱穴14
- 1 7.5YR4/4 褐色粘質土 混砂
  - 2 7.5YR5/8 明褐色粘質土
  - 3 7.5YR4/3 褐色粘質土 混砂
  - 4 7.5YR4/6 褐色粘質土 混砂
  - 5 7.5YR5/8 明褐色粘質土 混砂礫

- 柱穴11
- 1 7.5YR3/2 黒褐色粘質土
  - 2 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 混砂礫
  - 3 7.5YR3/3 暗褐色粘質土 混砂礫
  - 4 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 混炭・地山ブロック
  - 5 7.5YR5/8 明褐色粘質土 混砂

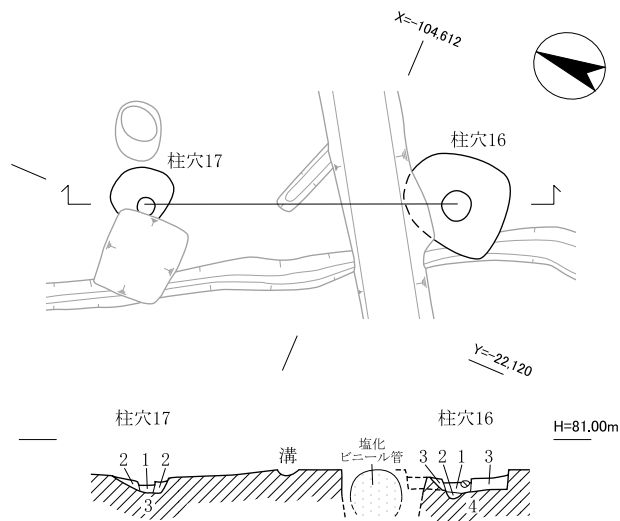
- 柱穴13
- 1 10YR2/3 黒褐色砂泥 やや粘質 混土器片微量
  - 2 10YR4/4 褐色粘質土 φ2cm礫微量
  - 3 10YR3/2 黒褐色砂泥 やや粘質 混炭微量
  - 4 10YR4/6 褐色粘質土 混砂礫微量
  - 5 10YR4/6 褐色粘質土

- 柱穴12
- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 粘質強
  - 2 10YR4/2 灰黄褐色腐植土 粘質強
  - 3 10YR3/2 黒褐色砂泥 やや粘質 混炭微量
  - 4 10YR3/2 黒褐色粘質土
  - 5 10YR4/6 褐色粘質土



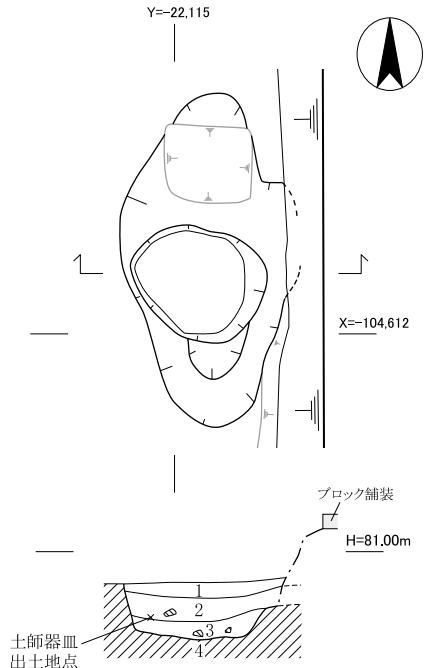
図7 掘立柱建物1実測図(1:50)





- 柱穴17
- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 混砂・φ20cm礫 柱抜取穴
  - 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 混礫
  - 3 7.5YR4/6 褐色粘質土 地山
- 柱穴16
- 1 10YR3/3 暗褐色粘質土 混φ8cm礫 柱抜取穴
  - 2 10YR4/6 褐色粘質土
  - 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土 混砂
  - 4 10YR5/8 黄褐色粘質土 混φ2cm礫 地山

図8 柱穴列2実測図(1:50)



- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 粘質 混土器・炭
- 2 10YR3/2 黒褐色砂泥 粘質 混土器・炭
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 混φ2~3cm礫中量・土器・炭・地山ブロック 最下層
- 4 7.5YR5/6 明褐色粘質土 地山

図9 土坑1実測図(1:50)

り、掘形規模は長径0.4~0.5m、短径0.35~0.4m、深さは0.2~0.4mである。柱抜取穴の径は0.15~0.25mである。古墳時代と平安時代の遺物が出土した。

柱穴列2(図8、図版4) 調査区中央部で柱穴を2基検出した。明瞭な柱抜取穴を検出したことから柱穴列としてまとめた。柱間は約2.0m、柱穴列の傾きは北に対して西へ約23.2度である。検出面の各柱穴掘形は隅丸方形である。掘形規模は径約0.4mと約0.55m、深さ0.15m前後である。古墳時代と平安時代の遺物が出土した。

土坑1(図9、図版4) 調査区東端で検出した。検出面掘形は南北約2.2m、東西1.1m以上、深さ0.4mである。東側は調査区外に続く。埋土の最下層はφ2~5cmの礫が中量混じり、最下層直上から完形に近い土師器皿が1点出土した。今回の調査で遺物が最も多く出土した遺構である。古墳時代と平安時代から室町時代の遺物が出土した。

## 4. 遺物

### (1) 遺物の概要

出土遺物は整理箱5箱である。時期は古墳時代と平安時代から江戸時代までの遺物が出土した<sup>1)</sup>。出土量は、鎌倉時代から室町時代の遺物が最も多く、次に古墳時代、次いで平安時代のものが出土している。江戸時代の遺物は少量である。出土遺物はほとんどが小破片である。

古墳時代の遺物は、土師器である。須恵器は出土しなかった。

平安時代の遺物は、土師器が多く、その他は少量である。その他には須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、瓦がある。

鎌倉時代から室町時代の遺物は、多くが土師器である。その他に少量の瓦器、焼締陶器、輸入磁器、瓦がある。

江戸時代の遺物は、施釉陶器、染付磁器、白磁、瓦がある。

### (2) 土器類 (図10)

出土土器は細片・小片であるため、図示は少数に留まり、7点を図示した。

掘立柱建物1出土土器(1～4)すべて土師器皿である。1が柱穴11、2が柱穴13、3が柱穴12、4が柱穴13柱抜取穴から出土した。1～3は外反する口縁部に内湾する端部が付く。4は口縁部が内湾し、端部が外反して面を作る。時期は4B～4C段階に収まり、11世紀後半に比定できる。

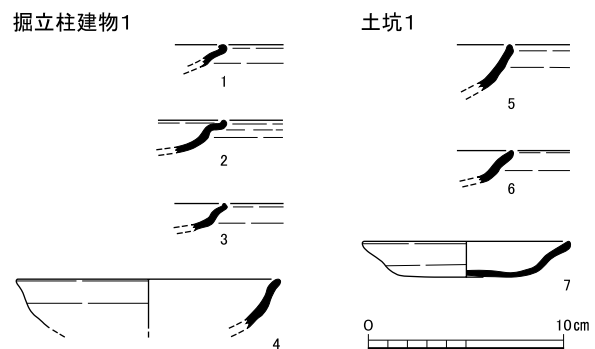


図10 出土土器実測図(1:4)

表4 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
古墳時代	土師器				
平安時代	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、瓦		土師器4点		
鎌倉時代～室町時代	土師器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦		土師器3点		
江戸時代	施釉陶器、染付磁器、白磁、瓦				
合計		6箱	4点(1箱)	0箱	5箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

土坑1出土土器（5～7）すべて土師器皿である。5は口縁部が緩やかに内湾し、端部は三角形状を呈する。6・7は体部上半がやや外反し端部を丸く収める。5～6の時期は7C～8A段階に収まり、14世紀中期に比定できる。

註

- 1) 土器の時期については、平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年 に掲載の編年案による。

750年	840年	930年	1020年	1110年	1170年	1260年	1350年	1410年	1500年	1590年	1680年	1740年	1800年	1860年
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B	A B C	A B C	A B	A B C	A B C	A B C	A B C	A B	A B	A B

## 5. まとめ

今回の調査では、古墳時代、平安時代、鎌倉時代から室町時代、近世から近代の遺構や遺物を確認した（図11）。以下、時代別に述べる。

**古墳時代** 竪穴建物3を検出した。時期は古墳時代前半と推定している。遺跡北西部では古墳時代の遺構が多数確認されており、調査2で竪穴建物10棟、調査3で竪穴建物3棟と流路、調査4で掘立柱建物2棟と流路、小学校南東側で実施された広域立会調査（調査1）では竪穴建物1棟を検出している。調査地周辺は古墳時代の集落の一面であったと考えられる<sup>1)</sup>。

**平安時代** 掘立柱建物1と柱穴列2を検出した。いずれの遺構も、時期は平安時代中期と推定している。しかし、掘立柱建物1の主軸方位がほぼ正方位であるのに対して、柱穴列2は北に対して西へ約23度傾く。両遺構の主軸方位の不一致が何に起因するのか、今後の調査をふまえて検討する必要がある。小学校周辺の調査では、調査2で土坑1基、調査3で掘立柱建物1棟と土坑3基を検出している。調査3から北側が集落域と考えられる。

**鎌倉時代から室町時代** 土坑1を検出した。出土土器から、時期は鎌倉時代末期から室町時代初期に比定できる。小学校周辺の調査では、調査2で溝<sup>2)</sup>と柱穴群、井戸、土坑、調査3で井戸、土坑、調査4で土坑群を検出した。遺構密度は調査2が高く（図12）、それよりも南側の調査地では希薄となる傾向がある。集落は現在の明神川周辺を中心に形成された可能性が高い<sup>3)</sup>。

**近世から近代** 耕作土から数点の遺物が出土した。また、耕作溝や耕作に伴う杭跡と考えられる小穴・柱穴を検出した。調査区周辺は耕作地として利用されたと考えられる。周辺調査では、調査2において土坑（小石室）や柱穴などを検出したが、調査3では耕作土層や土坑、調査4では耕作土層と畦畔、杭跡と考えられる小穴・柱穴を確認した。調査地より南側は耕作地として利用されたと推定している。

### 註

- 1) 図11における古墳時代の遺構の時期は（表2：文献44）に従った。
- 2) 溝1・4は、調査2の報告において集落もしくは屋敷地を囲繞する「構の堀」と推定されている（表2：文献8）。なお、調査2の溝1は、明神川支流との関連も想定できる。
- 3) 上賀茂神社の門前では、社司や氏人、農民が生活した集落（社家町）が、遅くとも15世紀中ごろには成立していたと考えられている。調査2の遺構群は、これに関連するものと想定されている（表2：文献8）。

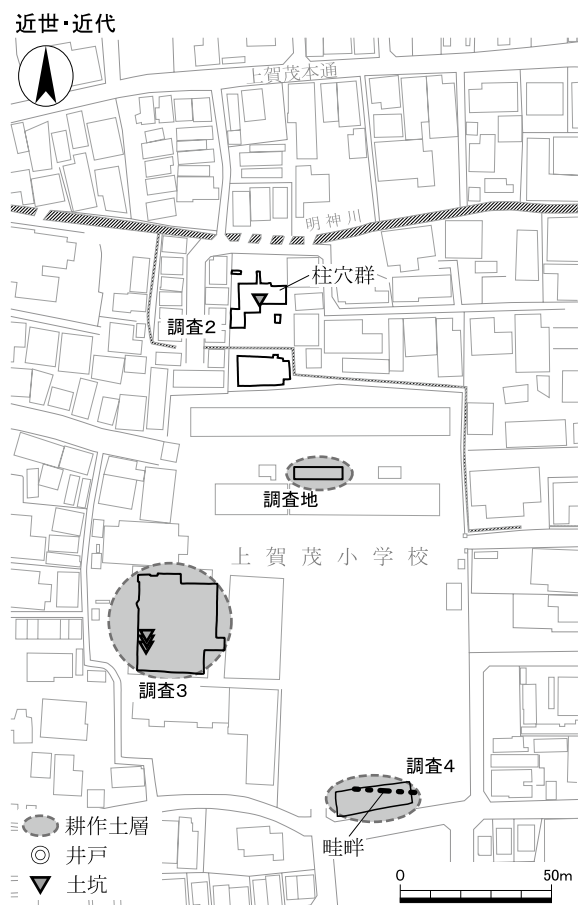
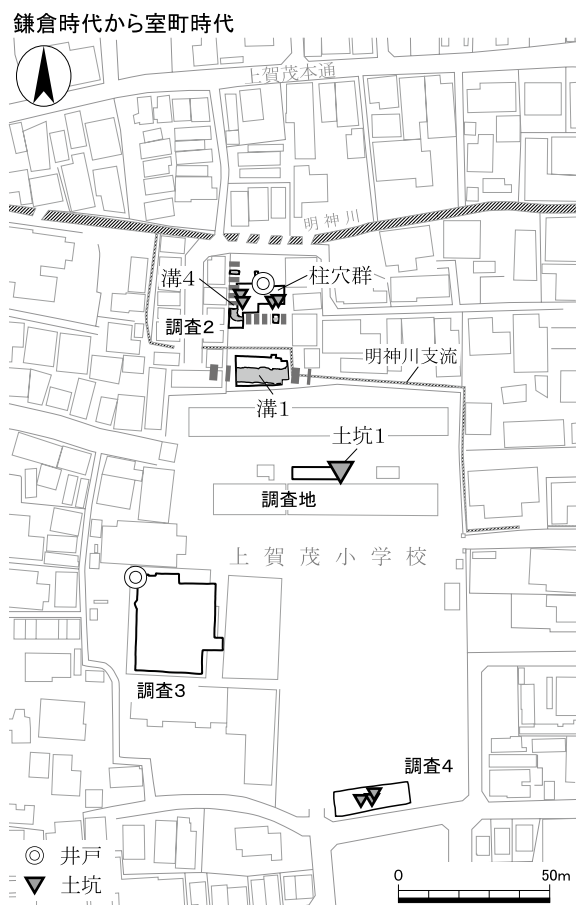
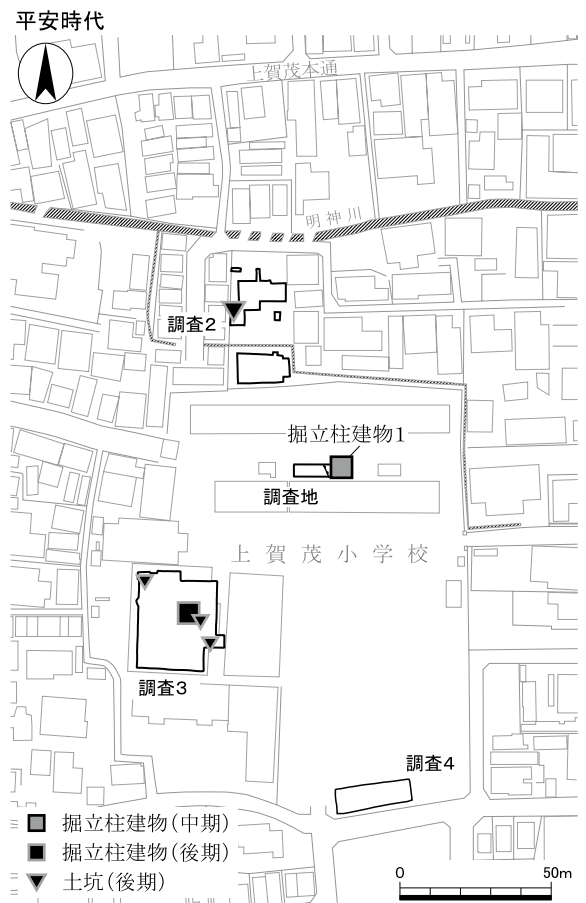
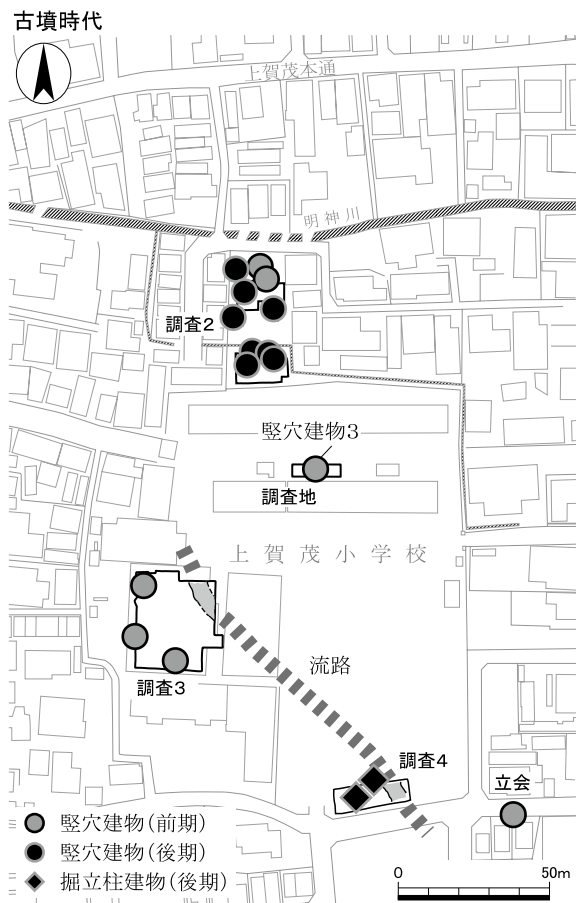


図11 遺構変遷図 (1 : 2,500)

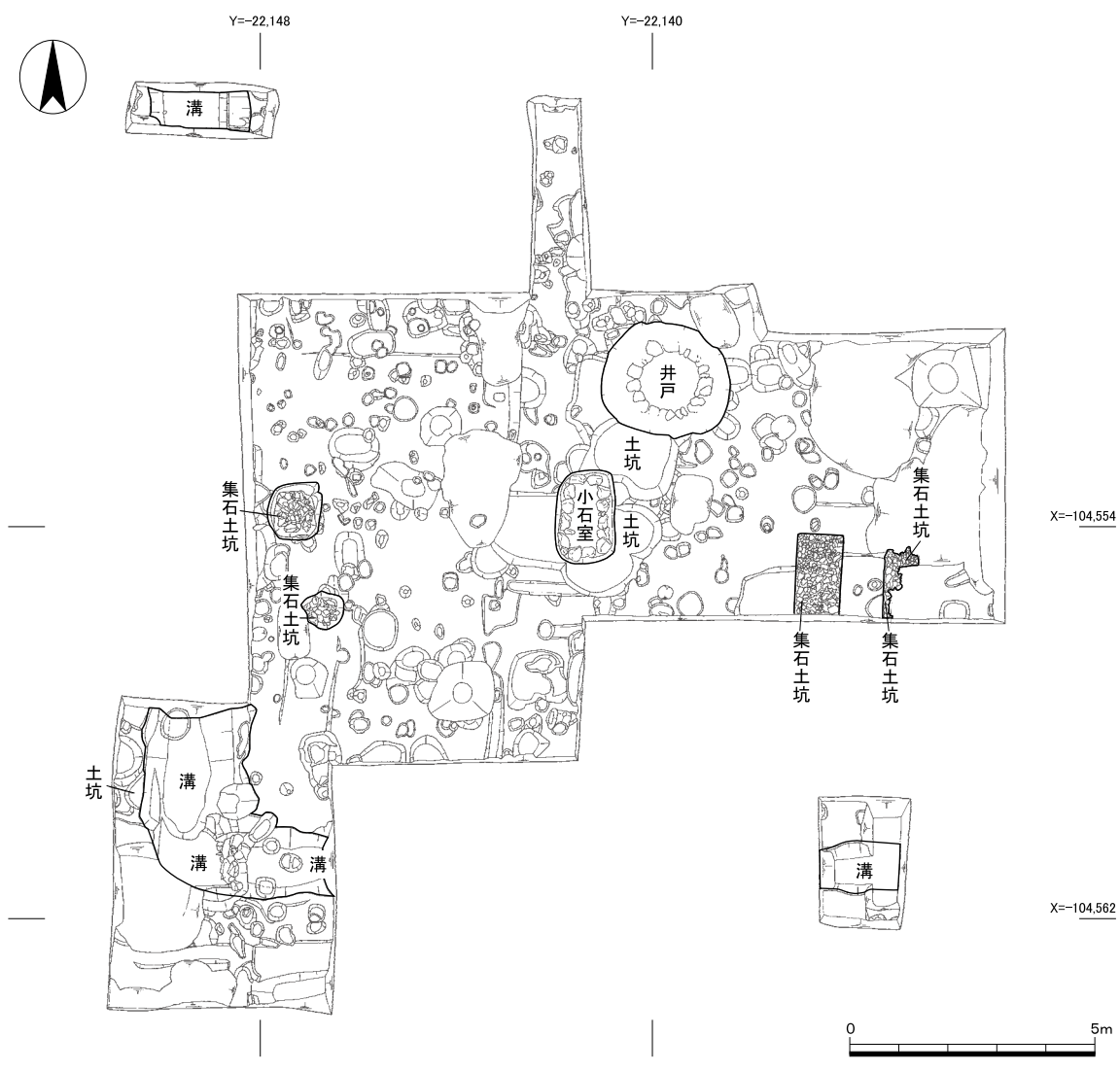


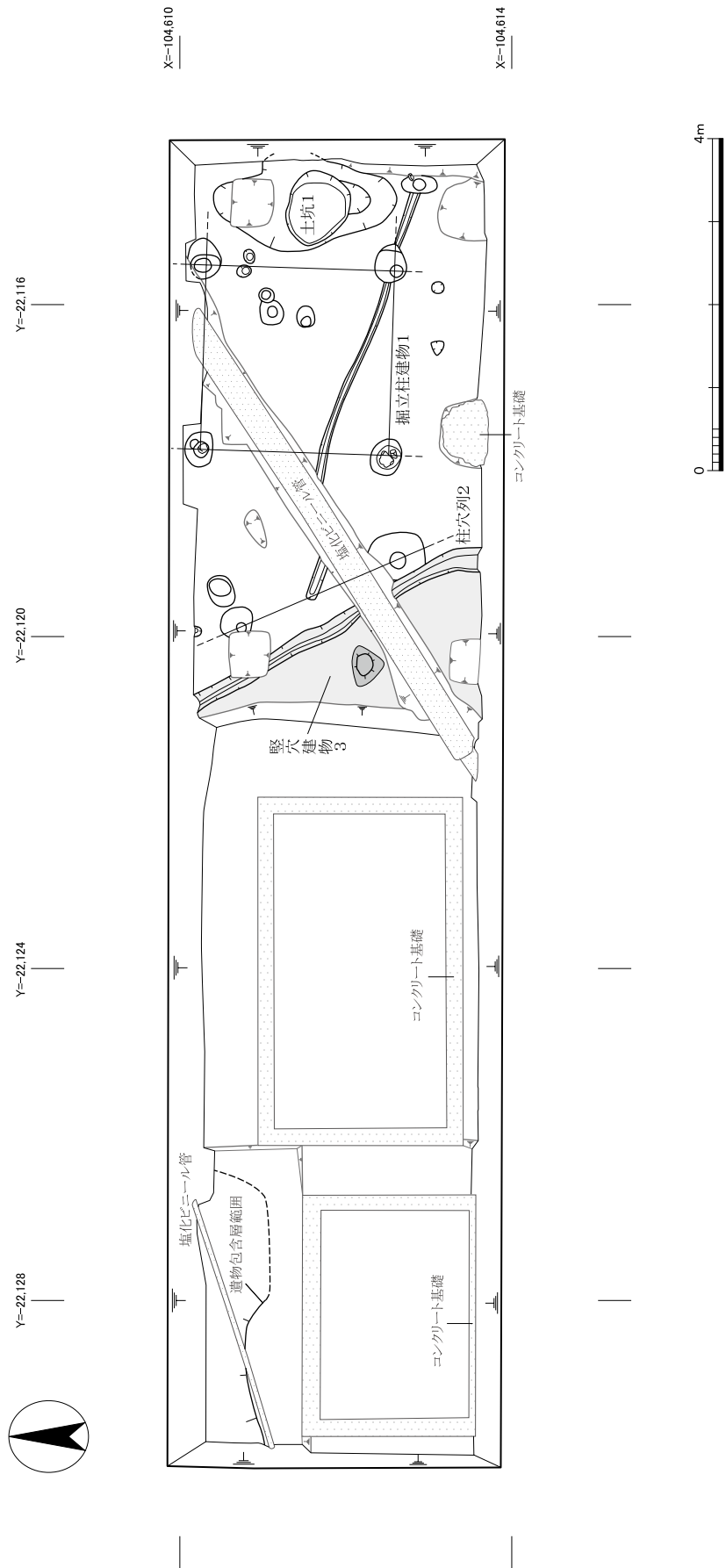
図12 調査2 B区 鎌倉時代から桃山時代遺構平面図 (1 : 150)

# 圖 版

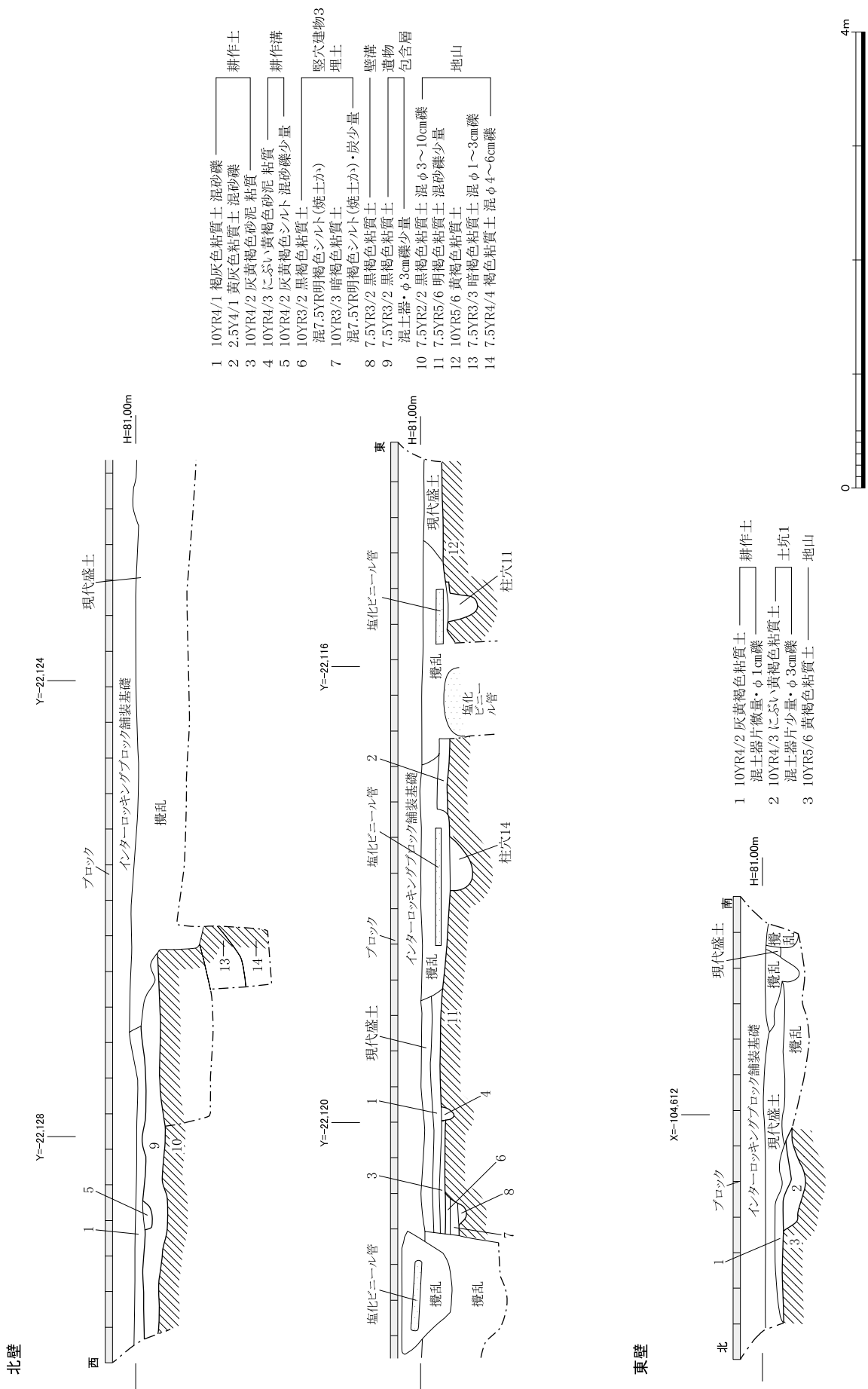




調査区平面図 (1 : 80)



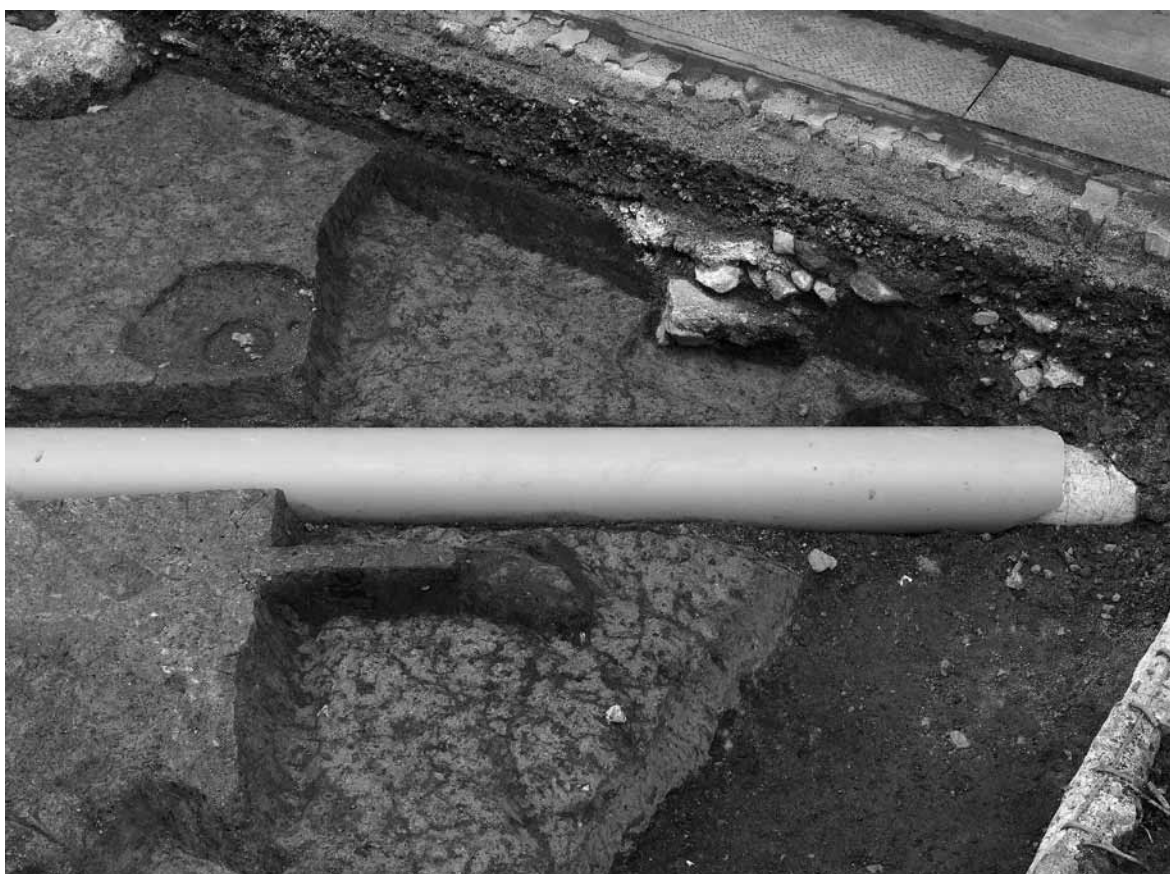
図版2 遺構



調査区北壁・東壁断面図 (1 : 50)



1 調査区全景（西から）



2 竪穴建物3（北西から）



1 掘立柱建物1、柱穴列2（西から）



2 土坑1土師器皿出土状況（北から）



3 土坑1完掘断面（北から）

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	しょくぶつえんきたいせき							
書名	植物園北遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2022-6							
編著者名	布川豊治							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2023年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しょくぶつえんきたいせき 植物園北遺跡	きょうとしきたく 京都市北区 かみがもえぼしが 上賀茂烏帽子ヶ かきうちちやういちばんち 垣内町1番地	26100	146	35度 03分 24秒	135度 45分 27秒	2022年7月 23日～2022 年8月23日	64㎡	校舎改修 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
植物園北遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴建物	土師器		古墳時代の竪穴建物1棟、平安時代の掘立柱建物1棟を検出した。		
		平安時代	掘立柱建物、柱穴列	土師器				
		鎌倉時代 ～室町時代	土坑	土師器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2022-6

## 植物園北遺跡

発行日 2023年3月31日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273番  
〒602-8358 TEL 075-467-5151